

平成14年6月11日

「転落検知マットシステム」の開発実用化について

東洋電機製造(株)(社長 甲斐邦朗)は、東洋のプラットフォームセーフティシステムの一環として、「転落検知マットシステム」(ホーム保安監視装置)を開発し、実用化しました。

毎日乗降客の混雑するホームは、大きな危険が発生する恐れもあります。安全の確保が何より大切な鉄道業界では、対策が望まれております。今般、開発実用化した「転落検知マットシステム」は、こうした安全を守る悩みに対応して、プラットフォームの乗降客がホーム下へ転落した場合に、いち早く検知して警報を出し、列車の進入や発進を防止できる新しいシステムです。



最大の特徴は、動作が非常に安定し、信頼性の高い検知マットを使用している点です。仕様は、セーフティマットとして国際規格をクリアし、1枚が幅35cm長さ150cmの大きさのマットをホーム下に敷設することにより、転落を検知することができます。3月下旬、京王電鉄の井の頭線・下北沢駅に採用されました。

東洋「転落検知マットシステム」の主な特徴は、以下のとおりです。

(1)動作の迅速性と安定性

乗降客が誤ってホーム下に転落した場合、いち早く検知して駅構内に危険を知らせ、同時に、車両側に信号を送り自動的に停止することもでき、安全が確保されます。

(2)高い安全性と信頼性

このマットは、セーフティマットとして国際規格のISO13856「機械の安全性—感圧保護装置」を満足するものとなっており、その第1部「感圧マットおよび感圧フロア的设计および試験通則」に合致し、高い信頼性を得ています。

(3)安定した検知感度

検知感度は、約5kg/40mmφと安定しており、体重の軽い小児でも検知可能な一方、小動物等を検知する可能性は殆どありません。

(4)優れた耐久性

マットおよびマット台は、屋外での使用に耐え得る構造となっています。

(5)優れた耐薬品性と傷付きにくい表面素材

油、石油、酸等に対しても、強い材質で構成されており、マットの表面は、ナイフ等でも傷付きにくい材料を使用しています。

このシステムは、車両の扉位置が一定でないためホーム可動柵の設置が困難な駅において、乗降客の安全確保に有効です。今後、鉄道各駅のニーズに対応し設置拡大に取り組んでいくと共に、腰高サイズの可動ホーム柵(開発完了)、車椅子利用者の乗降便利なスロープやステップ(開発完了)など、鉄道車両と駅設備の分野で、より安全かつ便利なシステムを追求していく計画です。

21世紀はますます高齢化社会が進み、駅のバリアフリーに対応した関連機器・システムの増設が期待されています。当社は、これまで長年にわたり培ってきた交通システムの技術を生かして、今後も「バリアフリー対応の人にやさしい」電機メーカーとして社会に貢献して参ります。
以上

本製品は製造・販売を終了いたしました。
(平成20年4月現在)